学校番号	3030

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	東京書籍「書道Ⅱ」						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道Ⅰを基礎としながら多様な古典・名筆を臨書することで、表現の幅を広げましょう。
・さまざまな作品に触れ、鑑賞力を伸ばします。
・作品制作により、表現を構想し、工夫する力を伸ばします。
・書の伝統・文化への理解を深め、生涯にわたって書を鑑賞、愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現の方法や形式、諸表現の多様性について幅広く理解している。 書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技法を習熟している。	意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	書の創造的表現及び鑑賞の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期前半	篆刻 漢字の書(楷書・行書・篆書)	・美人墓誌銘 ・張猛龍碑 ・集王聖教序 ・篆刻 ・硬筆	a: 書道Ⅰの学習をふまえ、楷書・行書の書体や書風を理解し、用筆・運筆の表現の技法を習熟している。篆刻においては技法を身に付け、個性を生かした表現に広げようとしている。 b: 楷書・行書の古典の特徴を確認し、書風や書体に応じた用筆や書体に応じた用筆、字形の技法について工夫している。篆刻において全体の構成を工夫している。また自己及び他者の作品を鑑賞し、書の美を味わい捉えている。 c: 主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品
前期後半	漢字仮名交じりの書　仮名の書 漢字の書(五体)	・条幅作品制作 ・漢字仮名交じりの書の制作 ・高野切第一種	a: 条幅作品制作において五体及び仮名の特徴を理解し、用筆・運筆の表現の技法を習熟し、個性を生かした表現に広げようとしている。 b: 五体及び仮名の古典に即した多様な表現形式に応じて、全体の構成を工夫している。また自己及び他者の作品を鑑賞し、書の美を味わい捉えている。 c: 主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度